

1) 研究課題名

子宮内膜間質細胞と間質細胞肉腫の免疫組織化学的解析

2) 研究の目的と意義

子宮内膜は、性周期を有する女性において増殖期、分泌期を経て月経に至り、再び増殖期へと変化します。その間、内膜間質細胞は、小型の紡錘形細胞から類円形の増殖細胞、上皮様の前脱落膜細胞へと形態学的に変化します。さらに妊娠すると脱落膜の主たる構成細胞となります。増殖前期、増殖後期、分泌前期、分泌後期、脱落膜における間質細胞について、各5検体を用いて Estrogen Receptor (ER), Progesteron Receptor (PR), MIB-1 index, cyclin D1, EMA や, Cytokeratin, カドヘリン、CD10 について免疫組織化学染色を行い、染色性の変化を検索します。さらに内膜間質細胞由来の腫瘍である内膜間質肉腫5例についても上皮マーカーの陽性率や神経内分泌細胞への分化(CD56, クロモグラニン A)など、その多様な分化について免疫組織化学染色による検討を行います。染色性の比較により、各時期の間質細胞の特徴が明らかとなり、病理診断の補助になると考えられます。

研究の方法

検討に用いる検体は30件で、パラフィンブロックは、名城病院で、平成22年～平成26年の間に病理診断に用いたホルマリン固定ブロックを使用します。ブロックから切片を薄切し、免疫組織化学染色(ER, PR, Ki-67, cyclin D1, EMA, Cytokeratin, カドヘリン、CD10, CD56, クロモグラニン A)を施行し、顕微鏡像をデジタル顕微鏡撮影装置で取得し、計測値を統計学的に比較検討します。

4) 倫理的配慮

研究に用いる材料からは、顕微鏡観察で得た形態学的情報のみを取得し、遺伝子情報などは検索しません。症例の識別に氏名は用いず、新たに付した検体番号のみを使用し、第三者による個人の特定ができないように配慮します。臨床所見、病理情報も匿名化されたデータとして扱います。

5) 研究機関

名古屋大学医学部保健学科

6) 苦情等の連絡先

名古屋大学医学部保健学科庶務係

電話番号：052-719-1504

名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻病因・病態検査学講座

長坂徹郎

住所：名古屋市東区大幸南一丁目1番22号

電話番号：052-719-3152, FAX:052-719-3152